

## 【青葉区】令和2年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年2月10日（月） 午後2時30分から午後4時まで
場 所	青葉区役所4階 401～403会議室
出席者	【座 長】山下正人議員 【議 員：5名】行田朝仁議員、平田いくよ議員、藤崎浩太郎議員、 横山正人議員、大貫憲夫議員
	【説明局員（青葉区）：33人】 小出重佳 区長、岡田勇輔 副区長、 勝島聡一郎 福祉保健センター長、 吉田雅彦 福祉保健センター担当部長、 上田祐一郎 青葉土木事務所長、 渊上正基 青葉消防署長、 ほか関係職員
議 題	(1) 令和2年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）について (2) 青葉区の主要事業について
発 言 の 旨	横山議員 全体として伺いたいですが、局・区の提案も含めて、区長として予算の獲得状況はどうか。
	小出区長 全市的にも大変厳しい予算編成の中で、十分でない部分もあると思うが、青葉区の先を見据えた取組として、区の自主企画事業費だけでなく、ハード面でも所管局に粘り強く話をして、獲得できた面があると思う。
	横山議員 2年度予算において、他区と比べて減額が一番大きい。どのような理由か。
	小出区長 一つの要因として、区制25周年ということで市民局と調整した中で、令和元年度限りで配分された予算の部分が一番大きい。
	横山議員 青葉スポーツプラザの側溝は、結局どうなったのか。
	小出区長 区提案反映制度で所管局に提案を試みてはいるが、現時点においては、前進ができていない。ただ、そこで終わるのではなく、区として何かできないか、粘り強くやっていきたい。
	横山議員 今、横浜市全体で企業版のふるさと納税の研究を始めている。区の足りない予算を補う意味では、区が独自に市外の企業に対してセールスをかけられる唯一の方法だと考えている。この企業版ふるさと納税を活用し、例えば「青葉スポーツプラザの整備等をやっていけないか」等を、区が独自で考えていかなければいけないと思う。このスポーツプラザは学校予定地だが、教育委員会事務局としては整備に予算はつけない。区が利用者として、企業版ふるさと納税の研究を独自でやったらどうか。
	小出区長 区としてまだまだ認識や研究が不足している部分がある。個性ある区づくり推進費だけでなく、新たな部分にも目を向け、局にも確認しながらどう取り組めるか考えていきたい。
横山議員 市が予算化しないなら、区で考える、くらいの気概を持ってもらいたい。12ページの「きらきらマップ」について、放課後デイ等様々な施設を地図上に落としているが、問題は小規模多機能についてだと思う。学校を卒業した後の行き先が、今は非常に困難を極めている。特に市北部地域は厳しい状況にあり、区から局に言っていないと進んでいけないと思う。	

高齢・障害支援課長	特に医療的ケアや重症心身障害児者の受入施設については、青葉区は市内全域に比べても数が少ないという課題がある。整備自体は民間に補助をして作ってもらうことになる。区としては関連団体を含めた自立支援協議会を昨年から作っていて、その関連団体に課題を知ってもらい、一緒に取り組んでもらえるよう働きかけをしている。
横山議員	高齢者とか児童の施設に比べ、障害者の場合は団体をお願いしても手いっぱいであり、できる状況ではないので、もう一步区が踏み込んで考えていかないと施設数は増えていかない。 今年の区の賀詞交換会は、日曜日（1月5日）の開催だったが、青葉区の特性として勤めている人も多いので、今後も休みの日に実施した方が良い。これに限らず、自治会町内会行事等は、土・日曜日を中心に考えた方が良いと思う。 今後実施予定の自治会町内会の感謝会は平日にやるのか、休日にやるのか。
地域振興課長	平日に開催予定である。
横山議員	これからますます、町内会長も働く人が担い手になってくることが多くなる中で、「感謝」し、多くの人に来てもらいたいのなら、平日ではなく休日開催にした方が良い。また、我々市会議員は一度も呼ばれたことはない。せめて青葉区では市会議員に声かけがあっても良いのではないかな。
地域振興課長	開催日に関しては、市や自治会町内会の皆様とも相談していきたい。市会議員の皆様のお出席については、今まで招待した事例はないため、他区の状況やこれまでの経緯等を確認したい。
横山議員	最後に谷本公園の進捗状況はどうか。
区政推進課担当課長	状況は、前回からは変化していないが、9月以降、地権者交渉に区も同席をしている。前向きな地権者もいると感じており、その方に土地取得契約を結んで頂けるよう、環境創造局と連携して交渉していきたい。
横山議員	最後にもう一点だけ。今年、青葉区で係長試験の結果はどうか。
総務課長	係長昇任試験は、A区分とB区分あわせて、3名合格した。
横山議員	青葉区を経験した職員が、市の然るべき立場になっていくというのが、青葉区にとっても良いことだと思っているので、ぜひ引き続き頑張ってください。
行田議員	18ページの「読書活動推進事業」について、他自治体との図書館の相互利用が進んでいて、町田市との連携をやるとは聞いているが、進捗をお聞きしたい。
学校連携・子ども担当課長	時期についてはまだ聞いていないが、町田市及び逗子市と協定を結べるように鋭意協議をしていると聞いている。
行田議員	待っている方もいると思うし、広報も含めて検討してもらいたい。 20ページの「災害時のペット対策の取組支援」について、「14か所以上」とあるが、今年の状況と地域防災拠点における全体の状況について教えてほしい。
生活衛生課長	今年の状況は、13か所の地域防災拠点で訓練を行った。災害時のペット対策が始まってから、これまでに何かしらの取組をした拠点が41拠点中27拠点。そのような状況を踏まえ、令和2年度は、取組実績のある拠点の約半分以上の14拠点で実施していきたいと考えている。
行田議員	健康福祉局の令和2年度予算でも、ペットの同行避難に対する理解を進めるために動画を作成する予定であるが、区ではどのように活用していくか。

生活衛生課長	動画の具体的内容までは、まだ検討していないと聞いているが、ガイドラインの内容に沿ったものとなるとみている。各拠点の取組の進捗状況に合わせ、適宜活用していきたい。
行田議員	たくさんの拠点で見てもらい、実際に訓練に使えるように要望させていただく。 最後に24ページの「起業者の実践を支援するための検討」について、経済局と連携する事業だと思うが、経済局からコワーキングスペースみたいな形で、青葉で働ける状況をつくると聞いている。その上で、区がパートナーを見つけて、さらに空き家とか空いたスペースを契約すると思うが、今わかる範囲で具体的な地域等を教えてもらいたい。
高齢・障害支援課長	「起業者の実践を支援するための検討」は、経済局の事業と直接連携するものではない。23ページの起業を支援するセミナーを卒業されている方々が、「実践場所が見つからない」、「一方で利益が上がらないので高い場所を借りられない」といった課題があるため、場所を見つけるための支援をしていきたいと考えている。
小出区長	青葉区で独自に行っている「地域における起業等支援事業」においては、新しい実践場所を探す支援の検討も令和2年度は行おうと考えている。 それとは別に、区提案反映制度で経済局が予算化したコワーキング、あるいはシェアオフィスも含めた「働く場の創出」については、新規事業として経済局と連携して進めていく。
行田議員	本当にこれからスタートという感じで、今のところ何か青写真があるわけではないのか。
小出区長	「郊外部における働く場の創出事業」は、まだ具体的な場所や対象企業の要件は決まっておらず、現在、経済局において制度設計をしている。
藤崎議員	13ページの新規事業の「異世代交流による青少年育成」において、地域活動支援拠点が設置されるということだが、場所や時期についての概要を教えてください。
学校連携・子ども担当課長	区内で場所を見つけること自体がなかなか難しく、場所を含めた公募という形をとろうと、現在子ども青少年局と調整している。そのため、時期については、令和3年1月以降に開設できればと考えている。
藤崎議員	「連携し」とは書いてあるが、令和3年1月以降ということなら、ここでいう「連携」とはどういうことか。
センター担当部長	これまで3年間「市が尾ユースプロジェクト」で、様々な取組を地元の皆様と行ってきた。そこで活躍してきた皆様にも開設される拠点で活動して頂くという想定で、個性ある区づくり推進費で予算計上している。
藤崎議員	「市が尾ユースプロジェクト」は、今年で終わるような話も聞いているが、今後の展開を確認したい。
学校連携・子ども担当課長	「市が尾ユースプロジェクト」という事業自体は、今年度で終わるが、今、運営をお願いしている団体とは、今後の相談を行っている。次年度以降、区役所が全く同じような関わりがないとしても、経験してくれたサポーターの中で引き続き従事をしてくれる人がいるかを団体内部で確認をしようとしているところ。何らかの活動を続けられるように工夫をしていく。

藤崎議員	<p>「市が尾ユースプロジェクト」は中高連携して取り組まれた事業であり、青葉区らしい、またこの地域のメリットを生かした非常に面白い事業だったと思っている。そのため、同じ形ではないにしても、今後の取組に期待したい。青少年育成にも関係すると思うが、14ページの「8050問題の引きこもり支援等」もひっくるめてやっていく必要がある。健康福祉局と子ども青少年局との連携も今後図られていくことが示されている中で、「関係各課及び関係機関との連絡会」とは誰がどう主導していき、どこが主体となっていくのか。</p>
高齢・障害支援課長	<p>包括的支援連絡会ということで、まずは区役所内の関係各課、様々な部署が関わっているので、効果的に連携ができるように会を行っていきたい。その後、ユースプラザや学校など区役所以外の色々な関係機関との連携ができるようにと考えている。</p>
藤崎議員	<p>佐賀県の引きこもり支援の事業や取組を視察に行ったところ、ユースプラザやいくつかの行政窓口をNPOが受託して中心となって、社協や学校、警察や行政を動かしている事例があった。横つなぎも重要な一方で、つないだ横のつながりを誰がどう引っ張れるかが重要なと思う。ただの横の連携で、「なんで集まっているのかわからないけど、毎月集まっている」という状況にはならないよう、より実質的な取組にしていきたい。</p> <p>32ページの「街づくり推進事業」の「GISを活用したさらなる分析」とは、具体的にどのようなものか。何に生かしていくのか。</p>
区政推進課長	<p>今年度の区民意識調査で地域ごとのデータを取っているのので、それをGISを使って可視化することをやりたいと思っている。それを利用して地域ごとの特性を分析していきたい。また、区民意識調査からも青葉区の強み・弱みが見えてくるので、区の特徴を生かして、令和3年度につなげる事業展開を調査・検討していきたい。</p>
藤崎議員	<p>フォトコンテスト等で内外に魅力を発信したり、「田園都市線駅周辺のまちづくりプラン」等各駅のまちづくり計画をしていたりしているが、より発展的にできるかが、このGISの活用とデータ分析に問われると思う。そこまで持っていけるようなより具体的な取組につなげていただきたい。また、GISの見直し等も議論されている政策局と連動し、青葉区が横浜市の一つのモデルとなれるような、区の強みを生かすための予算や組織づくりに取り組んでいってもらいたい。</p>
小出区長	<p>GISについては、区職員のスキルアップ研修や、各課で作成しているウォーキングマップやきらきらマップなど各種マップなどへの活用など、先駆的に取り組んでいる部分を強みに、引き続き頑張っていきたいと思っている。なお、この部分については、政策局や市立大学とも連携を取りながら、区の強みを発揮できるよう取り組んでいきたい。</p>
大貫議員	<p>これまであった「あなたの力の1%を あおば の未来に！」の事業がなくなってしまうようだが、私としてはすごく大事だと思う。高齢者は、自分ができる仕事が出てくると元気に生活できると思う。あの事業はどうなったのか。</p>
小出区長	<p>今回の主要事業の中では説明できなかったが、別添資料「令和2年度 青葉区予算原案について」内、「3 さまざまな人や活動がつながる、活力のあるまち」の「ソーシャルパワーの発揮」のキャッチフレーズとして掲げており、引き続き取り組んでいく予定である。</p>
大貫議員	<p>これは大事だと思う。活動したいという思いがある人でも、どうやって参加していいかわからない人もいる。標語もとても良いし、引き続き進めて欲しいので、具体的に高齢者にアプローチしていくような仕組みを明確にしていくことが重要だと思う。具体的にどのような取組をしているのか。</p>

小出区長	<p>具体的取組としては、例えば「起業」という部分についていきなり活動していくことは難しいと思うので、地域デビューとして「あおぼdeスタートセミナー」を開催し、これまで現役で活躍してきた方や何か取り組んでみたいと考えている方に、多く参加して頂いている。また、「花と緑の風土づくり」でも誘い掛けを行い、今まで一步踏み出せていなかった方にもアプローチする形で努力を続けている。</p>
大貫議員	<p>ぜひ、キャッチフレーズは前面に出してほしい。若い人たちは忙しく社会的なつながりも多いが、高齢者は余裕のある時間が多い。そのような人たちが地域に関わってくることは非常に大事だと思うし、そのような人たちの力を借りていくことは街の明るさにもかかわってくると思う。ぜひキャッチフレーズを前面に出してほしい。</p> <p>次に26ページの「商店街活性化・中小企業振興事業」についてお聞きしたい。今、市としては小規模企業のことを前面に出して、取組を行っている。以前の会議で確認した話では「IDECと連携していく」とのことだったが、令和元年度の実績はどのようなものか。</p>
地域振興課長	<p>まず商店街振興について、最大10万円の小規模事業者設備投資の助成金に、全市で294件中、青葉区では30件ほど申請があり、298万円の補助が行われた。</p> <p>次にIDECについては、昨年8月7日にIDECと経済局と連携して、時間外に相談会を開催した。事前に商店会の会合等で広報をしたが、参加者があまり見られなかったため、今後は周知の仕方などを考えていきたい。</p>
大貫議員	<p>一回目のため、すぐに多くの人が集まってくることはないが、令和2年度も予算計上しているようであれば、区で小規模事業者の皆さんに知らせる努力をしていってもらえればと思う。</p> <p>最後にエコ関係だが、世界的に気候変動の問題や影響がある中で、区の取り扱い方が非常に弱いと思っている。私たち区民ができることは、省エネや創エネである。創エネでいえば、売電の金額がどんどん下がっていく状況のため、太陽光発電を行う意欲が弱くなっていってしまうのではないかと思う。そのため区民に、蓄電池と一緒に太陽光発電パネルを設置してもらうような取組を進めていってほしいと思う。所管局との関係もあると思うが、青葉区から協働事業として打ち出し、区民への呼びかけ等を進めていってほしいと要望する。それと脱温暖化の部分において、エコスクール等子どもたちへの啓発は引き続き続けていってほしいが、区民に対して具体的な省エネと創エネ関わる事業を提案してほしい。</p>
小出区長	<p>ハード的な面ではすぐには難しいが、令和元年は区制25周年でもあり、昨年8月には脱温暖化に関わる講演会も行った。そのような普及は大切であり、夏休みということもあり、子どもを含めた多様な世代に参加していただき、温暖化についての実感を持っていただいたと思う。大規模な取組を継続的に実施することは難しいが、引き続き講演会のようなものは実施していきたい。また温暖化対策統括本部とコラボレーションができることがあるか、引き続き考えていきたい。</p>
平田議員	<p>11ページの「児童虐待・DV対策事業」について、見守り保育付き相談の昨年度の計画と実績は。</p>
こども家庭支援課長	<p>平成30年度は、予約制で年間12回くらいだったが、令和元年度は週1回と拡充し、昨年は51回ほど実施した。</p> <p>令和元年の実績としては大体半日程度で5～6名の利用者だった。3年間の窓口来庁者平均が1日85件程度あり、すべての来庁者が見守り保育が必要ではないが、令和2年度予算で週3日に拡充することで、より丁寧に対応できるのではないかと考えている。</p>
平田議員	<p>児童虐待は件数や内容も深刻になり、防止対策が重要だと考えるが、その点から拡充されたのか。</p>

こども家庭支援課長	<p>保育の面でいえば、来庁者が気軽に相談できる環境を整えることは重要だと考える。その他にも児童虐待については、様々なところからの連絡もあるので、区だけで対応できるものではないと考えている。そのため児童相談所をはじめ、関係する機関と一層連携を取りながら、対応をしていきたい。</p>
平田議員	<p>区役所などの窓口で直接相談を受けることも大切だが、想像するに、小さな子どもを連れて区役所まで足を運び、相談することは難しいと思う。日々の乳幼児一時預かりもあるが、11ページにある「一時預かり事業所連絡会」の昨年の内容は、どのようなものだったかお聞きしたい。</p> <p>また、12ページの「サポートファイル かけはし」の改定内容についても確認したい。</p>
こども家庭支援課長	<p>「サポートファイル かけはし」については、養育者や支援者等がより利用しやすいように改正し、幼少期から学齢期、支援をしてくれている事業所等において、その内容を継続的に見られるようにする。現在、実際に支援している人たちの声を聴きながら、より多くの人に活用していただけるものに改善していこうと考えている。</p>
平田議員	<p>「サポートファイル かけはし」は支援の切れ目を補う目的で作られたと思うが、放課後等デイサービスの現場では活用している事例はあまり聞いていない。本来の目的が達成できるように、あり方を検討して頂きたい。</p>
こども家庭支援課長	<p>様々なところで、保護者の皆様を含めて、使い方や利用の仕方を講演・啓発をしている段階である。より多くの方が手に持ち、利用できるように今後も啓発していきたい。</p> <p>「一時預かり事業所連絡会」では、弁護士の先生に依頼し、児童虐待から子どもを守るために保育施設ができることについて、法的根拠や事例を踏まえた研修を実施した。</p>
平田議員	<p>一時預かりは理由を問わず子どもを預けることができるため、日々、色々な相談が寄せられると思う。普段から区役所にも様々な声が寄せられていると思うが、それに答える相談体制づくりが重要だと思う。</p>
こども家庭支援課長	<p>一時預かりを行っている保育園や事業者との連携強化を図るため、日ごろから連絡を取るなど、より丁寧に子育て支援をやっていききたいと考えている。</p>
山下議員	<p>昨年、滋賀県では、交差点の事故の巻き添えで散歩中の保育園児が死傷する痛ましい事故があった。保育園の園長からは、普段の散歩コースで危ないと感じる部分もあるという声も聞いたが、例えば道路のスピードの調整をするとか、その後、何か対応をしているか確認したい。また、土木事務所とも連携を取っているのか。</p>
学校連携・こども担当課長	<p>園長会も含め多くの園から、約40か所について要望が上がってきている。警察が所管となる内容としては、「横断歩道を新設してほしい」「信号機を設置してほしい」「一時停止の標示を付けてほしい」「交通の取り締まりをしてほしい」などがある。土木事務所が所管となる内容としては、「歩道やガードレール、車止め、カーブミラー等を設置してほしい」「カラー舗装にしてほしい」といった要望が挙げられていた。あとは民間の土地についても、「保育園が近くにあるといった標示をしてほしい」といった声もあった。</p> <p>それらについて、昨年9月に約20か所抽出をして、土木事務所と警察と区の保育担当で現地確認を行った。現在、国の補正予算も活用して対策をとろうとしている。またソフトの面については、例えば「危険なコースでなく安全なコースで散歩をしてもらえないか」とか、「横断歩道では右左を見て渡るといった安全教育をしてほしい」といった旨を施設長会等でお願いしている。</p>

山下議員	<p>令和2年度予算でも計上していると思うが、事故が起こってからでは遅いので、ぜひ地域からの声を反映させてほしい。</p> <p>次に、災害時のペット対策について確認したい。青葉区ではペットの数が子どもの数より多いこともあり、ペットの同行避難については考えていけないといけない。熊本地震の時のように実際に避難できず、車中泊をしてエコノミー症候群になることも考えられる。生活衛生課が中心となり考えることも多いと思うが、危機管理の点から総務課としての考えを聞きたい。</p>
総務課長	<p>青葉区はペットの数が多く、仮に各地域防災拠点で話し合いが行われていて、まだ考え方が整理できていないとしても、ペットを連れてきてしまうことも想定される。実際の説明などは生活衛生課にお願いをしているが、総務課としても各地域防災拠点の運営委員の皆様積極的に働きかけをしていきたいと考えている。</p>
山下議員	<p>ペットを飼っている方は、同行避難できないと考えている。恐らくしなうと言っている。これだけペットが多いという特徴のある青葉区なので、区の個性をぜひ政策に生かしてもらいたいと思うし、普段からのしつけが大事だと思うので、しつけ教室等のタイミングを生かし、リンクして啓発等を進めていってほしい。</p> <p>次に23ページの「地域における起業等支援事業」について、高齢・障害支援課が所管だが、女性や若者のスタートアップはこの事業に入っているのか。</p>
センター担当部長	<p>いわゆる高齢化対応の中では、医療や介護に従事していただいている方が、青葉区では17,000人もいて、全体の2割くらいを占めている。一方で、介護のサービスでは、行き届かないという部分がある。そのような部分にコミュニティビジネスの事業者や地域の方々に、ぜひ貢献頂きたいと思っている。そのため、高齢・障害支援課で予算化しているが、地域で起業したい、地域に貢献したいといった方々の受け皿をどうやって作っていくかは、令和2年度考えていきたい。</p>
山下議員	<p>その場合、高齢・障害支援課で引き受けて、経済局につなぐということでしょうか。</p>
センター担当部長	<p>経済局でやろうとしている、いわゆるシェアオフィスやサテライトオフィスは業種等を限定していないと聞いている。個性ある区づくり推進費の中では、区民の方々のニーズに合わせたサービスを導入したいと考えており、必要な部分については福祉保健センターなどでサポートしていきたい。</p>
小出区長	<p>23ページの「地域における起業等支援事業」で掲げている部分は、地域包括ケアといった施策の中から、有効な取組としていくことをセンター担当部長から説明した。</p> <p>一方で、起業をしたい・活躍したいといった人は、年代を問わず幅広くいる。それをトータル的には「ソーシャルパワーの発揮 ～あなたの力の1%をあおばの未来に！～」の中で取り組んでいる。「ソーシャルパワー」では、例えば地域振興課所管の区民活動支援センターにおけるコーディネート機能の強化も含め、5つの事業が進んでいて、各セクションの課長・係長が連携を取り合っている。様々なニーズに合わせ、一つの事業では受けきれない部分があったら、区の中で他の事業とも橋渡しを行い、つながりを深めていく。さらにそれでも難しいようなら、経済局やIDECにもつないでいきたいと考えている。</p>